

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園児童デイサービス運営事業			会計	款	項目	大	小
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から就学前の児童で、成長・発達の心配のある児童と保護者	意図	成長・発達に心配がある幼児・児童及び保護者に対する支援をとおして、幼児・児童の運動、ことば、社会性・対人性など全体を発達促すとともに保護者の不安を和らげる。
事業内容	発達に心配のある幼児・児童に対して、日常生活における基本的動作の習得及び集団生活に適応出来るように、児童の身体並びに生活環境に応じた通園日数の中で、効果的な支援・訓練を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成23年10月1日に開所。平成24年4月からは、3歳未満児の利用児は1年間保護者と一緒に通園し療育を受けられるようになった。日数支援のため幼稚園や保育所、他事業所との並行通園という形で利用している。利用児童数は増加傾向にある。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	延べ利用人数	2,756	2,693	2,308	人	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）

契約人数は延41人であったが、並行通園をしている児童が多く、幼稚園や保育所の行事を優先する傾向から出席数の低い時があった。しかし、園児（特に年長児）の中には、障害が軽減されて支援日数を減らしていった園児もおり、支援の成果であると言える。児童デイは2日支援のクラスが4クラスと1日支援のクラスが1クラスだが、年間をとおしての出席率は平均74.6%であった。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	46,972,337	44,694,718	44,604,306
事業費(b)(円)	14,355,337	12,689,718	12,911,306
職員給与費(c)(円)	32,617,000	32,005,000	31,693,000
人役・職員(人)	4.00	4.00	4.00
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)	3.00	3.00	3.00
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	幼稚園や保育園との並行通園をしている契約者が増加したことから、送迎用のバス（つばさ学園と併用）を2便体制とし、利用希望者を受け入れられるようにしていく。	③取組における課題(Check)	バスの2便体制により送迎にかかる時間を要したため、園児の支援に対する教材の準備や会議等の時間確保が困難となった。
②H30に実施した取組(Do)	送迎用のバス（つばさ学園と併用）を2便体制とし、並行通園の園児の送迎を実施した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	バス運行経路等の改善を図ると共に、限られた時間内での職員の業務体制及び業務内容の改善を図る。